

[活動報告]

新型コロナウイルス流行下で実施した図書館利用者講習会と今後の展望について

堀野 陽子, 石橋 典子, 小畑 真理絵, 田名部 晃平, 三角 太郎

1. はじめに

令和2年度(2020年度)は, 新型コロナウイルスの流行拡大と共に始まった。大学の行動指針(BCP)が4月8日にレベル3(次いで, 4月17日にレベル4)になったことに合わせて, 学内の全ての図書館および図書室は4月13日から臨時休館となり, 職員は交代での在宅勤務を余儀なくされた。また, 各館にて実施予定だった新入生向けの対面イベントは全て中止となり, 急遽, 新入生向けの特設ページを作成した¹。

やがて流行が収束しはじめ, 新しい生活様式が定着すると共に職員も戻り, 郵送貸出など新規のサービスや, 限定的な館内サービスの再開に取り組んだ。6月19日にはBCPレベルは1まで下がった。その後, 今後続くであろうウィズコロナの時代に備え, 春から利用を停止していた共有パソコンの撤去とBYODの徹底(本館), 自動体温測定機の設置やオンラインでの発話が可能なエリアの開設, 座席の間引き, フロアや設備の利用ルール変更等の安全対策を講じた上で, 秋には全館・室を挙げての「Go to 図書館キャンペーン」にて様々なイベントを実施し², 徐々に開館時間も増やしていった。書庫ガイダンスや古典資料の講習なども, 対面での実施を再開した。

しかし, 年が明けて1月7日に, 首都圏一帯に再び緊急事態宣言が発令されると, 本学のBCPレベルも翌日1月8日に2に引き上げられ³, 授業や会議の体制は再びオンライン形式が推奨されるようになり, 現在に至る⁴。

本稿では, このような状況の中で各館においてオンライン, 対面, あるいはこれら2つの様式を併用した

ものなど, 様々な形で実施した図書館講習会にフォーカスして報告する。また, 来年度以降も, 引き続き対面とオンラインの2つの様式の併用を求められることが予想されるため, 今後の展望についても述べたい。

2. 本館

2.1 「情報探索のススメ」シリーズのオンライン化

新入生向けの講習会「情報探索のススメ」は, 「学術情報の探し方」「図書の探し方」「雑誌論文の探し方」「新聞記事の探し方」の4コマで構成され, 会場を本館とし, 例年4月に, 学内の様々な図書館・図書室職員から構成される学習支援実施部会により対面実施している。

今年度は, 臨時休館の影響で中止が決定したが, 学内の様々なオンライン授業内にて教材の1つとして活用されることを目指し, 作業が可能な本館職員により, 講習内容の動画化に着手した。

実際の手順としては, 従来から使用していたPowerPointのファイルを流用し, 音声は, 読み上げソフトによる合成音声を使用した。学習支援実施部会としては, 過去に高大連携教育に関する動画教材を作成した経験があるため, 当時の実務経験者の助言が非常に役に立った。

在宅勤務と出勤を交互に行っていたため, 動画作成用の重い機器の移動に難儀したが, 5月の連休明けには作業を終えることができ, 学習支援実施部会のメンバーのチェックを経て完成した。その後, 過去に部会にて作成した教材の内容を流用し, 新たなメニュー「外国語論文データベースの紹介」「参考文献の書き方と引用の仕方」「MyLibraryの使い方」「国立国会図書館デジタ

1 特設ページ「新入生のみなさまへ-図書館の利用について-」
<http://www.library.tohoku.ac.jp/news/2020/new/20200401.html>

2 中でも11月に始まった「百鬼夜行展」は, 従来の展示と, SNS WGメンバーによる, 任天堂の人気ゲーム「あつまれ どうぶつの森」での画像配布というバーチャルイベントとの同時開催という新規の試みとなった。<http://www.library.tohoku.ac.jp/news/2020/20201125.html>

3 2021年1月現在のBCPにおいて, レベル2下における授業方

針は「原則オンラインにより授業を実施します。定期試験や学位論文審査, 実技・実験・実習の授業科目等で対面での実施が不可欠な場合は, 十分な感染防止対策を施した上で, 対面により実施することができます。」とされている。

4 東北大学附属図書館におけるCOVID-19対応記録(2020.3-2021.3)は以下の通り。http://www.library.tohoku.ac.jp/news/2020/TUL_covid19_2020report.html

ルコレクション」も作成した。

これらの動画教材は、配布資料として作成したPDF版と合わせて、前述の学習支援実施部会と教員による授業運営部会とが協働して実施している授業「大学生のレポート作成入門」での紹介と、ほぼ全ての新生が入講するオンライン基礎ゼミ（受講生約2,000人）での紹介を行うことができた。また、教員からの個別の要望に応じてセッティングするオーダーメイド講習でも、前期および後期共に同シリーズを教材として活用する機会があった（12件）。特に海外在住の留学生がいるクラスでは、時差の問題もあり、オンデマンド配信可能な教材の需要が生じているようだった。再生速度が調整できることも、日本語に不慣れな留学生には都合が良いとのことだった。

提供方法としては、Google Driveにアップロードしたものを共有したり、授業の担当教員に動画ファイルをそのまま提供したりしたため、実際の視聴数がカウントできないという点が今後の課題だが、このような動画視聴を必要とする学生には、十分に情報と機会を届けることができたのではないかと推測する。

2.2 留学生向け動画のYouTube配信

留学生向けの講習会として、例年は春と秋に“Library guidance & tour”を、大学院生の留学生スタッフで構成される「留学生コンシェルジュ」が英語と中国語で実施していた。

しかし、今年度については、留学生コンシェルジュメンバーの活動を春から休止していたため、急遽本館職員により、英語の動画教材を作成することとなった。

“Welcome to New Normal Library”では、コロナ禍の下で大きく変更となったフロア構成や利用のルールを説明しつつ、館内全体を紹介した。“How to find books in Tohoku University Library”, “How to find journals in Tohoku University Library”では、通常の資料検索方法に加え、自宅から利用できる電子資料や、オンラインレファレンスの紹介に力を入れた。その他、資料や施設の予約、購入資料のリクエスト等ができるオンラインサービスを紹介した“How to use MyLibrary”も作成した。

公開は、従来から本分館のプロモーションビデオなどを公開していた留学生コンシェルジュのYouTubeチャンネルにて行った。今回公開した動画の視聴数は、来日する留学生数の減少を反映してか、他の動画に比較して決して多くはないが、今後の需要を見越して引き

続き取り組みを行っていく。

この他、11月に入り、留学生コンシェルジュの活動が再開したため、2021年1月現在は中国語の動画教材作成にも取り組んでいる。

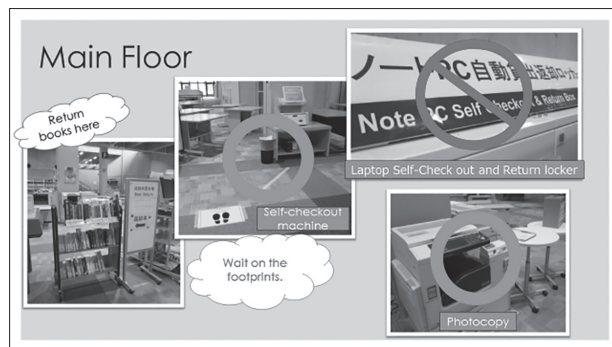


図1 動画“Welcome to New Normal Library”より

2.3 秋の新生ガイダンス&ツアー

対象：全学部の1年生

日時：9/28, 9/30, 10/2（日本語）

9/29, 10/1（英語）

会場：本館フレキシブルワークエリア

実施方法：対面

春に中止となった新生向けのガイダンス&ツアーは、前述の「Go to 図書館キャンペーン」の一環として、秋に実施した。例年は1回1時間のプログラムで、前半が講義形式のガイダンス、後半を館内ツアーとしていたが、今回は極力滞在時間や職員との接触時間を短くするために、全部で30分のプログラムとし、前半と後半を異なる職員が担当するようにした。また、会場入口にカードリーダーを設置し、学生証を読み取って来場者の記録を取り、トレーサビリティを確保した。

言語は日本語を3回、英語を2回計画した。通常は外国語の回は留学生コンシェルジュが担当するが、今回は活動休止中だったため、本館職員が担当した。

内容としては、従来の半分の時間のため、内容の精査に取り組んだ。また、職員にとって不慣れな英語の回は、従来のシナリオを極力平易な表現に変更し、より多くの職員にとって実施しやすいものを目指した。

長引く外出自粛生活の中でより一層強くなっていたであろう、大学生になったからには図書館を利用して大いに勉強をしたい、同級生に会ってみたいという気持ちを反映してか、日本語の会場は参加者が合計113

名と大盛況となった一方で、英語の回は練習の甲斐もなく、参加者がゼロであった。



図2 新入生ガイダンス&ツアーの様子

3. 医学分館

例年通り依頼を受けたオーダーメイド講習会と、当館主催の講習会を以下の通り実施した。実施方法は全て、Google Meet または Google Classroom を使用したオンライン（リアルタイム配信）である。

オーダーメイド講習会①

対象：病院薬剤部 25 名
 日時：6/3（事前学習のため 2 週間前に資料提供）
 内容：文献入手方法，医中誌 Web，PubMed（45 分）

オーダーメイド講習会②

対象：医学科 3 年（基礎医学特別講義）約 140 名
 日時：7/30
 内容：同上（90 分）

オンラインセミナー（データベース活用セミナー）

対象：星陵地区の学生，教職員（計 62 名）
 日時：9/25，10/20，10/21，10/22
 内容：日本語論文の探し方（2 回，各 60 分），外国語論文の探し方（2 回，各 60 分），図書の探し方・電子ブックの見方（1 回，30 分）

講習内容を組み立てるにあたり，特に配慮したのは，利用者が自宅等キャンパス外から電子リソースにアクセスすることが前提となった点である。特に医学系は，アクセスが星陵キャンパスに限定される資料が多いことから，星陵地区独自の VPN 接続が必須となる。そのため，従来補足程度だったネットワーク環境の説明の比重を増やし，最初で躓くことのないよう注意した。

オンラインでの講習会は初の試みで，担当者が操作を覚えるところからのスタートではあったが，回を重ねる中で，新しい工夫も取り入れていった。例えば，オーダーメイド講習会での実践を元に，PubMed の基本項目の説明を 10 分程度のナレーション付き動画にまとめ，ボリュームのある解説の途中で使用するようにしたところ，分かりやすかったとの感想をいただいた。

前年度から，当館は改修工事に伴う休館により直接利用できる資料に限られ，これまでより一層，電子リソースの利用促進が必要となっていた。しかし，講習会に参加者が集まらず，開催方法に苦慮していたのだが，今年度の当館主催の講習会では，過去の対面実施よりも多い，計 60 名以上の参加があった。アンケート結果も好評で，参加しやすかったとの声もあった。開催側としても，オンラインでの実施を機に参加申込とアンケートを Google Forms に集約することで省力化したり，本番と同じ環境でリハーサルができたり，良い変化があった。

なお，ニーズの把握のため，申込フォームに文献検索で困っていることを記入する欄を設け，講習会中はチャット機能で質問を受け付ける対応をしたが，参加者の様子が掴みにくい点はネックになっている。

医学分館 休館中でも！

医学分館

オンラインセミナー

後期が始まりましたね。研究の手始めは、論文検索ですが、お困りのことはないでしょうか？医学系の日本語論文、外国語論文を探す手順とポイントを紹介します。

図書の回では、臨時図書室での図書の探し方と電子ブックの紹介をします。5000点以上ある医学系電子ブックの使い方を覚えてしまいましょう。

場所	Google Meet			
日時	10月	20 (火)	21 (水)	22 (木)
12:15-12:45	/	/	/	図書
13:30-14:30	/	外国語論文	/	/
18:00-19:00	日本語論文	/	/	外国語論文

内容

図書： 図書検索の活用と取り寄せ方法、電子ブックの利用
 日本語： 医中誌Webの使い方と電子ジャーナルへのアクセス、電子ジャーナルが利用できないときの論文入手法
 外国語： PubMedの使い方と電子ジャーナルへのアクセス、電子ジャーナルが利用できないときの論文入手法
※日本語論文は9月9日開架の可外訳、外国語論文は22日と20日内容です。

参加方法

お申込みフォームからお申し込みください。
 東北大学のGoogleアカウントが必要です。各回30分前まで受付。
<https://forms.gle/YGftp4BX6mgdxuZB9>

お問い合わせ： 医学分館 遠隔課 ☎ 022-717-7978 ✉ mlb-u@gp.tohoku.ac.jp

図3 オンラインセミナーのポスター

4. 北青葉山分館

4.1 図書館ガイダンス

対象：理学部天文専攻配属の2年生13名

日時：9/30

場所：北青葉山分館

実施方法：対面

例年通りの内容でガイダンスと図書館ツアーを実施した。フィジカルディスタンス確保のためエントランスホールを広く使い、学生同士が1m以上離れるような座席配置とした。また、参加者名簿を作成するなどレサビリティの確保にも努めた。



図4 北青葉山分館エントランスホールでの講習会

4.2 図書館ガイダンスおよび SciFinder 講習会 (授業名：基礎化学実験・化学一般実験A)

対象：理学部化学専攻配属の2年生約80名
(留学生含む)

日時：1/12, 1/13

場所：理学研究科 H32 大講義棟 (1/12)

マルチメディア研究棟 M104 (1/13)

実施方法：対面 + オンライン

(1/12 : Zoom, 1/13 : Cisco Webex)

例年は化学情報協会（東京）からの講師派遣で開催していたが、講師の来仙リスクと担当教員の希望を鑑み、講師はオンライン接続で、学生は集合形式で実施をする準備を進めていた。ところが開催日直前に本学のBCPレベルが2に引き上げられたことから、急遽、学生がオンラインでも受講できるよう調整を行った。

理学部では各授業に対し Zoom のアカウントが割り振られており、初日の図書館ガイダンスでは授業用 Zoom

アカウントを用い配信した。通常、図書館ガイダンスにおいて質問が出ることはほとんどないが、Zoom では他の学生に投稿内容が見られない安心感からかいくつかの質問や反応が寄せられた。SciFinder 講習会をオンラインで受講する学生向けに急遽 VPN の接続方法なども説明に盛り込んだ。これらは図らずも今後状況が悪化した際の学術情報へのアクセス手段を教えることとなり、さらに役立つ内容が盛り込まれた。



図5 大講義棟での講習会の実施。6割ほどの座席が間引かれている。

翌日の SciFinder 講習会では化学情報協会が Cisco Webex Event で配信し、図書館職員はパネリストとして参加した。Cisco 受信環境の設定や VPN 接続を行う煩雑さからか、半数の学生が来校して受講した。例年は講義と実習とで時間を分けていたが、今回は講師が連続で説明を行い、学生はパソコン横の中間モニターで講師の講義を見つつ自分のパソコンで同じ操作をするという方法に変更した。実際に手を動かしながら説明を聞くスタイルとなり、例年以上に集中して受講している様子が見受けられた。



図6 マルチメディア研究棟(M棟)での講習会の実施。座席の半数が間引かれている。M棟では2席の間に中間モニターが設置されており講師のパソコンの画面が表示されるようになっている。

5. 農学分館

5.1 全体を通じて

今年度、当館では対面形式、録画・録音データの提供、

リアルタイム配信の3つを、受講者の状況に応じて選択的に行った。

講習会には従来通り PowerPoint を主として使用し、当日は講師1名のほか、1～2名が補助についた。

配信によるメリットは多かった。

テレワークが本格的に導入されたことで受講者と同じ学外環境で準備を進められ、学内用コンテンツへの学外からのアクセス方法を動画にまとめるなど、通常時の講習会では取りこぼしていたニーズに応えることができた。また、この動画の短縮版は、字幕を入れ Twitter⁵ 及び Instagram⁶ に投稿もしている。受講者が繰り返し視聴できるだけでなく他館職員も使用できるという利点があり、講師側の省力化が見込める。

加えて、Web ツールを活用することで扱える情報が増え、臨機応変な対応が可能になった。当館では質疑応答・実習課題に Google Forms を使用したが、回答状況が即座に反映され、受講者がどこで躓いたのかが把握しやすく、理解度に合わせた対処ができた。Google Meet のチャット機能を活用することで、複層的に補足を行えることも大きなメリットである。

一方で、受講者からは「まだ解けていないのは自分だけではないかと不安を感じた」等の意見が寄せられた。対面に比べ、配信は情報の伝達に優れているが孤独を感じる場面が多く、精神的なケアには課題があると感じる。

以下、形式ごとに実施方法を説明する。

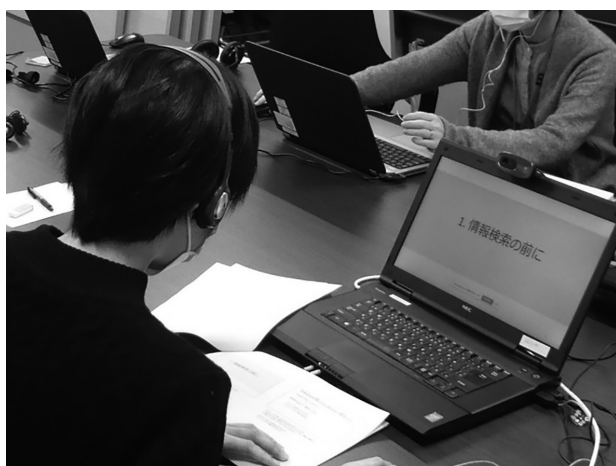


図7 リアルタイム配信時(手前:講師/奥:補助者)

5.2 録画・録音データを配信 (1件/大学院ゼミ)

対象:学部4年生6名, 大学院生5名

時間:60分

配布資料:

- ・講習スライド (PowerPoint スライドショーファイル / 音声・タイミングを記録したもの)
- ・各データベースの解説資料 (PDF)
- ・補足動画:①学外からのアクセス方法 / ②雑誌を探す_入力方法 / ③雑誌を探す_巻号をチェック

特徴:

- ・スライドショー形式で保存したファイルを配信した。
- ・データベースの操作方法等, 実際の画面を用いる必要がある場面では, 画面キャプチャと同時に解説を録音し, スライドに挿入して使用した。

5.3 リアルタイム配信 (3件/学部生必修科目の一コマ)

対象:各回, 学部生・院生合わせて11～31名

時間:各回60～120分

配布資料:

- ・講習スライド (PDF)
- ・各データベースの解説資料 (PDF)

特徴:

- ・Google Meet で講師画面を共有し, 配信した。
- ・補助者は Google Forms や Google Meet のチャット機能を使用し, 質疑応答や講義の補足を行った。
- ・学外からのアクセス方法 (動画) は講習中に再生した。

5.4 対面講習+リアルタイム配信 (1件/学部生必修科目の一コマ)

対象:学部3年生27名

時間:180分

配布資料:

- ・講習スライド (PDF)
- ・各データベースの解説資料 (PDF)

5 @hagi_no_suke.【農学分館】Telorain で, 自宅でのオンラインデータベースの使い方について解説動画をつくりました。#春から東北大 [出典]Web of science / Clarivate Analytics (Japan) Co.,Ltd. 午後 0:12 2020 年 5 月 20 日 https://twitter.com/hagi_no_suke/

status/1262944315174785024
6 @tohoku_univ_lib. 同. 2020 年 5 月 20 日 <https://www.instagram.com/p/CAZOrY1jdew/>

特徴：

- ・学外からのアクセス方法は SNS へアップした動画へのリンクを案内した。

6. 今後の展望

利用者講習会の体制は、令和3年度以降も、当面はオンラインと対面の両方の要望に応えられる体制を整えていくことが必須と思われる。特に新1年生は、今年度と同様、前期の間は来仙しない可能性があり、来仙しても、他の在校生も含めて登校は最小限になる可能性を考慮に入れておくべきだろう。

コロナウイルスの流行が始まって以来、電子ブック購入費の増額や、学外からアクセスできるツールの増加など、オンライン授業に対応した様々な努力がなされ、リモート利用が可能なリソースは充実の方向に向かっている。リアルタイムでの応答が可能なチャットや、独自の YouTube チャンネル⁷および Twitter アカウント⁸を開設した館もある。今後は、これらの利用についての説明や

広報をさらに強化し、利用者によって十二分に活用されることを目指したい。

また、各館において作成した教材のさらなる共有や、データベース提供元で作成・配信している動画の活用は、業務の効率化につながることだろう。

Google Meet や Zoom など、オンラインでの講習会環境は十分に整い、職員も徐々に操作に慣れてきている。対面実施についても、安全に開催するノウハウが身に付いた。

今年度は困難の多い年ではあったが、個々の職員の IT スキルや、急変する状況への対応力は確実に向上したと言えよう。今後も変化を恐れず、来年度をさらなる飛躍の年とするべく、決意を新たにしたい。

(ほりの ようこ, 附属図書館情報サービス課学習支援係
いしばし のりこ, 医学分館 運用係
おばた まりえ, 北青葉山分館 整理・運用係
たなぶ こうへい, 農学分館 図書係
みすみ たろう, 附属図書館情報サービス課長)

7 2021年3月時点で公開中の YouTube チャンネルは以下の通り。
【全館】“東北大学附属図書館”https://www.youtube.com/channel/UCATWEZQkBor9DHCMR6I_0OQ
【工学分館】“こうぶんチャンネル”<https://www.youtube.com/channel/UCBPYROEoXgv1owU69dJnDjw>

8 2021年3月時点で情報発信を行っている Twitter アカウントは以下の通り。
【全館】@hagi_no_suke 【医学分館】@Tohokulib_M
【工学分館】@KobunLib 【金属材料研究所図書室】@imr_lib